

2023 年 11 月 12 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒313 番（旧 84 番）（MK 姉）

『主に頼る者は』

聖書⇒イザヤ書 40:28~31 節（MM 姉）

『あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。

主は、とこしえにいます神／地の果てに及ぶすべてのものの造り主。

倦むことなく、疲れることなく／その英知は究めがたい。

疲れた者に力を与え／勢いを失っている者に大きな力を与えられる。

若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが

主に望みを置く人は新たな力を得／驚のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。』

礼拝讃美歌⇒316 番（旧 88 番）

『わが眺むるは』

聖書⇒詩編 49:2~5 節（ES 姉）

『諸国の民よ、これを聞け／この世に住む者は皆、耳を傾けよ

人の子らはすべて／豊かな人も貧しい人も。

わたしの口は知恵を語り／わたしの心は英知を思う。

わたしは格言に耳を傾け／豎琴を奏でて謎を解く。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 9:25~26 節

『ホセアの手紙にも、次のように述べられています。

「わたしは、自分の民でない者をわたしの民と呼び、／

愛されなかった者を愛された者と呼ぶ。

『あなたたちは、わたしの民ではない』／

と言われたその場所で、／

彼らは生ける神の子らと呼ばれる。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒308 番 (旧 79 番) (KH 姉)

『力の御手に』

聖書⇒イザヤ書 41:9~10 節

『わたしの僕イスラエルよ。わたしの選んだヤコブよ。

わたしの愛する友アブラハムの末よ。

わたしはあなたを固くとらえ／地の果て、その隅々から呼び出して言った。

あなたはわたしの僕／わたしはあなたを選び、決して見捨てない。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (EK 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒149 番 (旧 220 番)

『主イエスを覚えんため』

《建徳》

聖書⇒創世記 13 章 5~9 節 (EK 兄)

『その土地は、彼らが一緒に住むには十分ではなかった。彼らの財産が多すぎたから、一緒に住むことができなかったのである。アブラムの家畜を飼う者たちと、ロトの家畜を飼う者たちとの間に争いが起きた。そのころ、その地方にはカナン人もペリジ人も住んでいた。アブラムはロトに言った。「わたしたちは親類どうしだ。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。あなたの前には幾らでも土地があるのだから、ここで別れようではないか。あなたが左に行くなら、わたしは右に行こう。あなたが右に行くなら、わたしは左に行こう。』』

聖書⇒創世記 23 章 1~20 節

『サラの生涯は百二十七年であった。これがサラの生きた年数である。サラは、カナン地方のキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは、サラのために胸を打ち、嘆き悲しんだ。アブラハムは遺体の傍らから立ち上がり、ヘトの人々に頼んだ。

「わたしは、あなたがたのところに一時滞在する寄留者ですが、あなたがたが所有する墓地を譲ってくださいませんか。亡くなった妻を葬ってやりたいのです。」

ヘトの人々はアブラハムに答えた。「どうか、御主人、お聞きください。あなたは、わたしどもの中で神に選ばれた方です。どうぞ、わたしどもの最も良い墓地を選んで、亡くなられた方を葬ってください。わたしどもの中には墓地の提供を拒んで、亡くなられた方を葬らせない者など、一人もいません。」

アブラハムは改めて国の民であるヘトの人々に挨拶をし、頼んだ。「もし、亡くなった妻を葬ることをお許しいただけるなら、ぜひ、わたしの願いを聞いてください。ツォハルの子、エフロンにお願いして、あの方の畑の端にあるマクペラの洞穴を譲っていただきたいのです。十分な銀をお支払いしますから、皆様方の間に墓地を所有させてください。」

エフロンはそのとき、ヘトの人々の間に座っていた。ヘトの人エフロンは、町の門の広場に集まって来たすべてのヘトの人々が聞いているところで、アブラハムに答えた。「どうか、御主人、お聞きください。あの畑は差し上げます。あそこにある洞穴も差し上げます。わたしの一族が立ち会っているところで、あなたに差し上げますから、早速、亡くなられた方を葬ってください。」

アブラハムは国の民の前で挨拶をし、国の民の聞いているところで、エフロンに頼んだ。「わたしの願いを聞き入れてくださるなら、どうか、畑の代金を払わせてください。どうぞ、受け取ってください。そうすれば、亡くなった妻をあそこに葬ってやれます。」

エフロンはアブラハムに答えた。「どうか、御主人、お聞きください。あの土地は銀四百シェケルのものです。

それがあなたとわたしの間で、どれほどのことでしょう。早速、亡くなられた方を葬ってください。」

アブラハムはこのエフロンの言葉を聞き入れ、エフロンがヘトの人々が聞いているところで言った値段、銀四百シェケルを商人の通用銀の重さで量り、エフロンに渡した。こうして、mamreの前のマクペラにあるエフロンの畑は、土地とそこの洞穴と、その周囲の境界内に生えている木を含め、町の門の広場に来ていたすべてのヘトの人々の立ち会いのもとに、アブラハムの所有となった。

その後アブラハムは、カナン地方のヘブロンにあるmamreの前のマクペラの畑の洞穴に妻のサラを葬った。その畑とそこの洞穴は、こうして、ヘトの人々からアブラハムが買い取り、墓地として所有することになった。』

聖書⇒創世記 26 章 15~22 節

『ペリシテ人は、昔、イサクの父アブラハムが僕たちに掘らせた井戸をことごとくふさぎ、土で埋めた。アビメレクはイサクに言った。「あなたは我々と比べてあまりに強くなった。どうか、ここから出て行っていただきたい。」イサクはそこを去って、ゲラルの谷に天幕を張って住んだ。そこにも、父アブラハムの時代に掘った井戸が幾つかあったが、アブラハムの死後、ペリシテ人がそれらをふさいでしまっていた。イサクはそれらの井戸を掘り直し、父が付けたとおりの名前を付けた。イサクの僕たちが谷で井戸を掘り、水が豊かに湧き出る井戸を見つけると、ゲラルの羊飼いは、「この水は我々のものだ」とイサクの羊飼いと争った。そこで、イサクはその井戸をエセク（争い）と名付けた。彼らがイサクと争ったからである。イサクの僕たちがもう一つの井戸を掘り当てると、それについても争いが生じた。そこで、イサクはその井戸をシトナ（敵意）と名付けた。イサクはそこから移って、更にもう一つの井戸を掘り当てた。それについては、もはや争いは起こらなかった。イサクは、その井戸をレホボト（広い場所）と名付け、「今や、主は我々の繁栄のために広い場所をお与えになった」と言った。らがイサクと争ったからである。』

聖書⇒ヨシュア記 3 章 7~17 節

『主はヨシュアに言われた。「今日から、全イスラエルの見ている前であなたを大いなる者にする。そして、わたしがモーセと共にいたように、あなたと共にいることを、すべての者に知らせる。あなたは、契約の箱を担ぐ祭司たちに、ヨルダン川の水際に着いたら、ヨルダン川の中に立ち止まれと命じなさい。」ヨシュアはイスラエルの人々に、「ここに来て、あなたたちの神、主の言葉を聞け」と命じ、こう言った。「**生ける神があなたたちの間におられて、カナン人、ヘト人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、アモリ人、エブス人をあなたたちの前から完全に追い払ってくださることは、次のことで分かる。**見よ、全地の主の契約の箱があなたたちの先に立ってヨルダン川を渡って行く。今、イスラエルの各部族から一人ずつ、計十二人を選び出せ。全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足がヨルダン川の水に入ると、川上から流れてくる水がせき止められ、ヨルダン川の水は、壁のように立つであろう。」ヨルダン川を渡るため、民が天幕を後にしたとき、契約の箱を担いだ祭司たちは、民の先頭に立ち、ヨルダン川に達した。春の刈り入れの時期で、ヨルダン川の水は堤を越えんばかりに満ちていたが、箱を担ぐ祭司たちの足が水際に浸ると、川上から流れてくる水は、はるか遠くのツァレタンの隣町アダムで壁のように立った。そのため、アラバの海すなわち塩の海に流れ込む水は全く断たれ、民はエリコに向かって渡ることができた。主の契約の箱を担いだ祭司たちがヨルダン川の真ん中の干上がった川床に立ち止まっているうちに、全イスラエルは干上がった川床を渡り、民はすべてヨルダン川を渡り終わった。』

聖書⇒ミカ書 3 章 5~12 節

『わが民を迷わす預言者たちに対して／主はこう言われる。

彼らは歯で何かをかんでいる間は／平和を告げるが／

その口に何も与えない人には／戦争を宣言する。

それゆえ、お前たちには夜が臨んでも／幻はなく／

暗闇が臨んでも、託宣は与えられない。

預言者たちには、太陽が沈んで昼も暗くなる。

先見者はうろたえ／託宣を告げる者は恥をかき／

皆、口ひげを覆う。神が答えられないからだ。
しかし、わたしは力と主の霊／正義と勇氣に満ち／
ヤコブに咎を／イスラエルに罪を告げる。
聞け、このことを。ヤコブの家の頭たち／イスラエルの家の指導者たちよ。
正義を忌み嫌い、まっすぐなものを曲げ
流血をもってシオンを／不正をもってエルサレムを建てる者たちよ。
頭たちは賄賂を取って裁判をし／祭司たちは代価を取って教え／
預言者たちは金を取って託宣を告げる。しかも主を頼りにして言う。
「主が我らの中におられるではないか／災いが我々に及ぶことはない」と。
それゆえ、お前たちのゆえに／シオンは耕されて畑となり／
エルサレムは石塚に変わり／神殿の山は木の生い茂る聖なる高台となる。』

聖書⇒マタイによる福音書 23 章 1~12 節

『それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』

(NH 兄)

礼拝讃美歌⇒476 番 (旧 266 番)

『いかなる恵みぞ』

《建徳要旨》